

浄泉寺報

第18号
2019年
秋彼岸



台風の中勤まった本年8月15日の盂蘭盆会

弥陀の誓願不思議にたすけられ
まいらせて、往生をばとぐるな
りと信じて念仏もうさんとおも
いたつこころのおこるとき、す
なわち摂取不捨の利益にあずけ
しめたまうなり。

『歎異抄』

浄泉寺住職 望月廣三

第十四号から『歎異抄』第一条

を取り上げています。そこでまず
問題になる「弥陀とはなにか」を、
課題にして話をすすめてきまし
た。

阿弥陀仏という仏さまは現世
利益(神仏を信仰することによつ
て現世において得られる利益)を
願うものではない、ということ
です。こう言うと、いったいなんの
ために手を合わせるのか、と文句
を付けたくなるかもしれません
ね。しかしよく考えてください。
神仏に利得をお願いして、叶えら
れたことがあるでしょうか。もし
あるとすれば、それは偶々ではな
いでしょうか。願いを叶えるため
には、それに向かつて努力するほ
かないでしょうか。努力をしつづ
けることによって願いが叶えられ
るのです。そういう意味では、「努

力しつづけられる」ことが仏さま
からたまわる「利益」なのかもし
れません。

「迷い」は道理に暗いのです。
想いが実現できないからといつ
て、自棄になるのは筋違いですね。
想いや夢が叶うのは、並々ならぬ
日々の努力の結果なのです。神仏
に祈願した“おかげ”ではけつ
してありません。

癌に罹ったのは神仏の罰が当
たったからではありません。「助
けてくれ!」と絶叫するでしょう。
心底から神仏に手を合わせるこ
とでしょう。このことによって得
られる体験は比類なき「宝」では
ないか。わたしはそうおもう。そ
の体験によって、それまで気付い
なかつた自分や人生を発見する
ことができる。とすれば、仏さまは
そうした自分になるよう、つねに
励ましているにちがいないとせ
ん。

浄泉寺からのお知らせ

●彼岸会●

本堂でのお彼岸のお勤めです。
ぜひお参りください。

九月二十三日(月・祝)午後二時〜

お勤め・住職法話

●報恩講●

※真宗門徒にとつて、最も大切な法要です。
初日は合唱団を招いての音楽法要。二日目
のお昼には、手づくりのお齋を用意してい
ます。お問い合わせ、ぜひお参りください。

十二月十四日(土) 午後三時〜

音楽法要・御伝鈔拝読

十二月十五日(日) 午前十一時半〜

結願晨朝・お齋・満日中法要

「法話」熊谷宗憲師(真宗大谷派元宗務総長)

●同朋会●

浄泉寺では、毎月住職の法話の後、お
茶を飲みながら語り合う同朋会を開催し
ています。どなたでもお気軽にご参加い
ただけます。報恩講の前には、本堂の仏
具の「おみがき」も行います。
日程等の問合せは浄泉寺まで。

「若坊守のひとりごと」

下の子が生まれて三ヶ月が経ちました。娘を産んだ時は右も左もわからず、今思えば些細なことでも落ち込んだりしましたが、二人目は育児に対して幾分余裕もある気がします。それは、発達の見通しがある程度分かっているということと、育児でうまくいかないことは受け入れるしかないと思い知ったということが大きいかなと思います。

私達はいつも心のどこかで「自分の思い通りにいくはずだ」と思っています。しかしそれゆえに悩み、苦悩します。私自身、六年前に突如親というものになって一番驚いたのは、思い通りにならないことを、まだ言葉も話せない幼い娘のせいにしていたことでした。苦悩する原因は私自身であったのに、原因を外へ求めてばかりいて何とも情けない話です。

子育てに限らず、人生は思い通りにならないことの連続です。しかし、それこそが生きているということなのではないでしょうか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ⑯ ～ 本山・真宗本廟(東本願寺) ～

浄泉寺の宗派は、「真宗大谷派」(浄土真宗の宗派の一つ)です。一般的には(お西「浄土真宗本願寺派」に対して)「お東」といったりもします。皆さんは、電車で京都に行かれたことがあるでしょうか？京都駅中央口(通称：烏丸口)を出ると京都タワーが正面に見えます。京都タワーの先・烏丸七条の交差点を越えると、私たちの本山・真宗本廟(東本願寺)があります。

東本願寺は、江戸時代に4度の火災に遭い、その度ごとに全国のご門徒(お念仏の教えに生きる人々)の力によって再建されてきました。皆さんのご先祖も、何らかの形でこれまでの再建事業に関わっておられるかもしれません。

現在のお堂(親鸞聖人のお姿[御真影]を安置する世界最大級の木造建築・御影堂と本堂・阿弥陀堂)は、1895(明治28)年に完成したものです。ちなみに今年、重要文化財になることが決まりました。

本山の歴史を辿ると、宗祖・親鸞聖人の没後、親鸞聖人が顕かにされたお念仏(南無阿弥陀仏)

の教えを慕う門弟たちが、聖人の墓所(廟堂)に集ったことにはじまります。その後「本願寺」を名乗ることとなり、幾多の変遷を経て、1602(慶長7)年現在の地に東本願寺が創建されます。

本山・御影堂の親鸞聖人と向き合い、私が生まれた意味をたずねてみませんか？毎年11月21日から28日にかけては、本山の報恩講が勤まります。

(浄泉寺若院・釋亜世)



報恩講の時に掛けられる『御絵伝』に描かれた廟堂

令和元年(2019年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成30年(2018年)亡
三回忌	平成29年(2017年)亡
七回忌	平成25年(2013年)亡
十三回忌	平成19年(2007年)亡
十七回忌	平成15年(2003年)亡
二十五回忌	平成7年(1995年)亡
三十三回忌	昭和62年(1987年)亡
五十回忌	昭和45年(1970年)亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>